

令和 2 年 2 月 19 日  
東紀州振興課

熊野古道世界遺産登録 15 周年となる今年度は、15 周年を盛り上げるための記念事業を実施するとともに、3 つの基本方針、(1) インバウンドを含む国内外からの誘客、(2) 子ども・若者など次世代育成による伝統と文化の担い手づくり、(3) 住む人にも訪れる人にも魅力的で持続可能な観光地域づくりに基づき取組を展開しました。

また、昨年度から産業分野で交流を進め、巡礼道の世界遺産を有するという共通点を持つ (4) スペイン・バスク自治州との連携を進めていきます。

## 1 今年度の取組

### <熊野古道世界遺産登録 15 周年記念事業>

#### ① キックオフイベント (7 月 7 日)

熊野古道センターにおいて、保全の功労者表彰、パネルディスカッション等を実施 参加者：約 500 人

#### ② 熊野古道ウィーク (10 月 26 日から 11 月 17 日)

市町や関係団体がシンポジウムやウォーキング等を集中的に開催

#### ③ フィナーレイベント「KUMANO KODO Festa」(12 月 21 日)

熊野市文化交流センターにおいて、小中高校生の地域の魅力を発見する活動の成果発表等を実施 参加者：約 200 人

### (1) インバウンドを含む国内外からの誘客

#### ① 世界遺産登録 15 周年記念シンポジウム (10 月 23 日)

三重、和歌山、奈良の紀伊半島三県が連携し、首都圏の銀座フェニックスプラザにおいて、熊野古道の魅力を PR するシンポジウムとして、基調講演、記念トークセッションを実施 参加者：180 人 (旅行事業者、メディア、その他事業者など)

#### ② インバウンド向け情報発信

中部経済連合会等と連携し、英語で観光ルートを紹介する記事、動画を情報発信

### (2) 子ども・若者など次世代育成による伝統と文化の担い手づくり

#### ① 小中学生を対象とする取組

世界遺産塾として「紀州鉾山と入鹿鍛冶」等 3 回開催 参加者：66 人

#### ② 高校生自らの企画による取組

尾鷲高校生 県内 ALT を馬越峠に案内 参加者：19 人

木本高校生 松本峠等を巡るツアー (5 コース) を開催 参加者：84 人 (県外含む)

※ 小中高校生の参加者たちは、フィナーレイベントでそれぞれの取組の成果を発表

### (3) 住む人にも訪れる人にも魅力的で持続可能な観光地域づくり

#### ① 熊野古道世界遺産登録 15 周年事業実行委員会の体制強化

東紀州 5 市町から南部地域等 15 市町に地域を拡大。行政のほか、観光関係団体、商工関係団体、農林水産関係団体、旅館業組合、観光施設、食品関連企業、NPO など民間企業・団体等 206 団体が参加

#### ② サポーターズクラブの活動

5/26 女鬼峠 16 人、2/22 二木島峠を予定、雨天により 3 回中止

#### ③ 秋の熊野古道伊勢路一斉保全活動

熊野古道ウィーク前の 10 月 19 日に馬越峠など 12 か所で 100 人が参加する初めての一斉保全活動を行う予定だったが、警報発令により中止

### (4) スペイン・バスク自治州との連携

#### ① 「世界遺産の巡礼道を活かした協力・連携に関する覚書」の締結

巡礼道の保全・振興に関わる関係者の交流や互いの巡礼道の魅力発信により、「熊野古道伊勢路」の保全と活用の取組を一層充実させていくことを目的に、スペイン・バスク自治州との間で覚書を締結

期日：令和元年 11 月 7 日

場所：バスク自治州ベアサイン市 イガルツァ歴史的建造物群

#### ② 「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路・バスクの道」写真展

期日：(ア) オープンイベント・・・3 月 1 日 (日) 13 時 30 分～

鈴木知事と NPO 法人日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会の森岡朋子理事との対談

(イ) 写真展・・・3 月 1 日から 4 月 5 日まで

場所：熊野古道センター

※詳細は別添チラシ参照 (来年度はバスク自治州で開催予定)

## 2 成果と課題

### (1) 成果

- ・15 周年事業実行委員会には東紀州地域内外から多様な団体・企業の参加があり、従来の枠組を越えたネットワークを新たに構築できた。
- ・キックオフイベントを通じて熊野古道の価値を再認識するとともに、保全の重要性が再認識できた。
- ・次世代を担う小中高生が、東紀州地域の価値や魅力を発見し伝える取組により、郷土への誇りと愛着心を育むきっかけになった。高校生の企画に地域が協力し一体となって実施した。
- ・バスク自治州との間で覚書を締結し、世界遺産の巡礼道を生かした相互の情報発信と交流に取り組むこととした。

### (2) 課題

- ・熊野古道来訪者数の伸び悩みと和歌山県側とのインバウンド受入環境の格差解消
- ・20 周年に向けて持続可能な観光地域づくりを進めるため、15 周年事業実行委員会のネットワークの生かし方と次世代の育成
- ・保全活動の新たな担い手づくり
- ・スペイン・バスク自治州との連携による民間交流の促進

### 3 来年度の展開

#### (1) 観光振興への注力

- ・地域の稼ぐ力を高め持続可能な観光地域づくりを進めるため、4月から東紀州地域振興公社を一般社団法人として観光振興の体制を強化
- ・和歌山県、田辺市熊野ツーリズムビューローとの連携強化によるインバウンド誘客の促進。例えば、旅行ルートの作成システム導入によるアクセスの利便性向上など、外国人が県境を越えて東紀州地域を訪れやすくなる環境づくりを実施
- ・マリオットホテル（御浜町）やVISON（多気町）のオープンの機会を捉え、南部地域活性化基金を活用するなど東紀州地域の枠を越えた施策を展開

#### (2) 次世代育成・ネットワークづくり

- ・20周年に向け、熊野古道や地域の価値と魅力を継承する人づくりを継続（小中高校生を対象）
- ・15周年で構築した実行委員会ネットワーク（206団体）を活用した地域の取組への参加の呼びかけ
- ・協力企業の拡大などによる保全活動の新たな担い手づくり

#### (3) バスク自治州との協力・連携の深化

- ・相互の道の価値の向上を目的に、特に保全団体や若者など民間同士の交流を促進

#### (4) 紀北・紀南交流拠点施設の活用促進

- ・4月1日から有料化予定の熊野古道センターの大ホール、小ホールの活用促進
- ・月間の客室稼働率が80%前後で推移するなど良好な経営状況が続く熊野倶楽部と地元市町との地域協働の継続